



石川 凜夏 (いしかわ りんか) 宇津木台小 1 年生

作品名:「あいうえおのせきがえ」をよんで

図 書:あいうえおのせきがえ

わたしのたんじょうびに、ふくしまにすんでいるおばあちゃんから本がとどきました。とてもおもしろそうなのですぐよみはじめました。

わたしとおなじぐらいのおんなのこのもんちゃんのおかあさんがつくってくれた、「あいうえお」ひょうにかかれたもじたちのおはなしです。もじたちはいつも、ましかくのますにきめられたじゅんばんですわっていることが、せまくるしくたいくつでつまらなくかんじていました。だから、いえのひとにぜったいみつからないようにきをつけて、ひょうからとびだしてあそんでいました。

あるひ、もんちゃんがかっこうでせきがえをしたときいて、もじたちもせきがえを試みることにになりました。

はじめにうごきたかったのは、「ん」です。「ん」のちかくには「わ」しかいないからです。「ん」は「あ」のせきとこうかんしておおよろこびです。

つぎに、ことばをつくってならんでみることにしました。ねこ、たぬき、ゆめ、えほん…など、たくさんのことばができました。そのなかに、にわ・せみ・すな、のもじたちはふたつのせきをいったりきたりして、とてもたのしそうです。わたしがおもいたつのは、「かさ」「さか」です。ほかにもさがしてみたいとおもいます。

もじたちのきもちになってみると、ずっとおなじせきにいるよりせきがえをして、いろんなおともだちとおはなしできるのはたのしいことだとおもいました。

わたしも、ことばをつくって、せきがえをしてあげたいとおもいました。